

高齢者公益事業部

浜名湖エデンの園 1・2号館耐震対策建替工事は2017年9月に起工式が執り行われ、3年半にわたる工事が始まった。工事期間中の入居者・地域住民・職員に対するさまざまな負担を少しでも軽減できるよう事業部の力を結集した対応を行い、今後予定される新規事業や他エデンの園の建替え、設備の更新等に向けて知識と経験を蓄積する。

事業の根幹である人材については、採用・育成・定着を有機的に捉えた中長期的な取り組みが不可欠である。看護介護職員の安定的採用に引き続き注力し、入居者一人ひとりに寄り添うことができる職員を育成するとともに、多様な人材が活躍できる働きやすい職場環境の整備を通じて職員の定着率をさらに高める必要がある。

サービスに関する取り組みとしては、2017年度にインカム（無線機）を2施設に導入し、サービスの質の向上、業務の効率化に大きく貢献したことから、今後もIT化、介護ロボットの活用をさらに推進する。自立の方に対する健康づくり支援として開始した運動（スクエアステップ）は3施設で展開しているほか、認知症の早期発見・診断・治療のシステム化を推進するなど、平均寿命と健康寿命の差（女性12年・男性9年）を縮める施策を拡大していく。また、自立期から看取り期までにおけるすべてのサービスについてエビデンスに基づいた標準化を図り、介護報酬改定への対応を含め入居者の視点に立った良質なサービス提供を目指す。特に、EQC活動（EDEN QUALITY CONTROL・事業部内の品質管理システム）を通じて明らかにできた運営面における細かな不整合については、事業部が主体となって標準化を促し、運用の見直しを適宜行う。

付属診療所については、診療報酬改定に的確に対応するとともに、エデンの各診療所間の横のつながりを強化することで課題を共有し、収支改善を継続的に図りたい。

2017年7月にNHKの「ドキュメント 72時間」で油壺エデンの園が取り上げられた（2017年12月に再放送）。この反響を活かした募集活動が奏功したこともあり、新規入居者数は予算を超えたものの、終身利用プランの件数は予算未達で入居金予算の達成には至らなかった。「ドキュメント 72時間」を通じて再認識できたのは、当事業部が行う有料老人ホームがまだまだ社会的に認知されていないことである。入居者募集セミナー等を通じて各エデンのそれぞれの強みをアピールし、継続的な顧客の創造に努めたい。直営7施設の目標数値として、入居契約件数127件、入園金合計39.7億円、事業部全体の当期活動増減差額として5.8億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) その人らしく最期まで生活することを支えるサービスの実践
 - (ウ) 公益活動の推進

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室入居率95%を目指した募集活動の展開
 - (イ) 経営・運営に資する評価指標の再構築
 - (ウ) 環境・耐久性等を考慮した建物・設備更新の計画策定と実施

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材採用力の向上
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上と標準化
 - (エ) EQC の実践
 - (オ) 高齢者ケアの実践
 - (カ) サービス内容の可視化
 - (キ) 入居者満足度の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 既存施設改修、新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2018 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	23 件	22 件	13 件	30 件	20 件	9 件	5 件	5 件	127 件
入居率	93.1%	95.3%	94.4%	91.3%	94.2%	100%	99.5%	94%	94.5%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2017年度は4号館の解体工事が本格化した年だった。大きな樹木が伐採され、ホールや大浴場が解体されていく様子を渡り廊下から入居者のみなさんがよくご覧になっていた。騒音やほこりなどで大変な時期もあったが、工事は今までのところほぼ工期どおり順調に推移している。1,2号館にお住いの方々の引越し先も決まり、10月から1年6か月ぶりに新規入居の募集を再開した。1月には久しぶりに新たな契約も結ばれた。工事が本格化しても生活の質を落とすことのないよう外出企画や催し物の開催、避難・休憩先の確保などに力を入れた。工事は今後まだ続き、これまでの対策も決して十分なものではないため、引き続き入居者のみなさまの快適な生活を継続するための創意工夫をしていきたい。

2018年度は、いよいよ増築4号館が完成し引越し大移動の年になる。大食堂も仮設食堂と仮設厨房に分かれ運用される。入居者の引越しと事務所機能の移転と両方を無事終わらせ、スムーズに移行することが今年度の大きな課題である。これから2年半余り続く工事の二つ目の大きなハードルを乗り越えていけるよう、昨年同様、高齢者公益事業部や近隣施設との連携を強め、その対応に真摯に取り組んでいきたい。引き続き一人ひとりを大切にされたケアの実践を通して、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供できるよう職場間の連携を強化していきたい。パーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）に基づくサービスの提供は、ケア・看護部門に留まらず、フロントや事務部門にも根付くよう園全体で取り組んでいく。

また、新たにケア・看護部門の副園長を配置することで、今まで以上に入居者一人ひとりの思いに寄り添い、入居者一人ひとりの視点に立ったサービスの提供に注力したい。介護予防にも力を入れ、入居者がいつまでも元気で健康でいられる「健康寿命」を延ばす努力をしていきたい。

食事に関しては、仮設厨房への移行時及びその後のスムーズな食事提供体制の確保を目指す。

入居者募集については、募集再開に伴い、既存棟空室の新規契約に取り組むと同時にフルオープン時に満室になるよう入居希望の待機者増加につながる活動を続ける。

最後に、職員一人ひとりが希望を持って仕事に取り組めるような職場環境の整備や研修計画、目標面接を実施していきたい。多様な働き方ができ、心身ともに健全に業務に取り組めるよう、様々な面で支援できる施設となるように努める。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材確保と育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践
 - (イ) その人らしく生活することを支えるためのライフレビューブック（回想記録）導入検討
 - (ウ) ISO9001・2015 の更新審査受審
 - (エ) 地域における公益的取り組みのための組織づくり
2. 次世代を担う人材確保と育成
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」を継承・発展させる人材育成
 - (イ) 施設の「事業・運営計画」「予算」を全職員が理解し達成に参画
 - (ウ) 人材の採用と定着による安定した職場環境の確保
 - (エ) 働きやすい環境の整備
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 職員一人ひとりの募集意識の向上
 - (イ) 介護報酬改定への対応
 - (ウ) 経営意識向上と、経費節減への取り組み強化
 - (エ) 仮設厨房の安定稼働
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) リスク発生時の対応と予防の取り組み強化
 - (イ) 防犯訓練の実施
 - (ウ) BCP（事業継続計画）の策定
 - (エ) 安否確認訓練の実施
 - (オ) コンプライアンス体制の強化
5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) 仮設食堂へのスムーズな切り替え
 - (イ) 増築4号館運用対応
 - (ウ) 工事に伴う入居者への精神的支援
 - (エ) 聖隷三方原病院への導線確保

【数値指標】

2018 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	263 戸／275 戸		46 戸／57 戸		309 戸／332 戸			
入居者数／定員	314 名／455 名		48 名／64 名		362 名／519 名			
入居率	95.6%		80.7%		93.1%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19 名	19 名	46 名	9 名	5 名	15 名	1 名	114 名
職員数（常勤換算）	126.9 名							
サービス活動収益	702,650 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2017年度は、利用者の入居から終末までのトータルヘルスケアを実践するために必要な課題を見出す年となった。

2018年度は、事業運営の3つの柱である「入居者満足・職員満足・経営安定」を支える取り組みとして、Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルによる評価と適正化を今まで以上に意識して業務改善と品質確保を図っていく。特に、健康寿命の延伸による生活の質 (Quality Of Life:QOL) の向上に関しては、疾病予防、介護予防への取り組みを強化していく。提供するサービスの基本であるパーソン・センタード・ケア (その人を中心としたケア) の実践力を高めるために、職場・職員間の連絡・連携を強化すると共に、職員個々の能力の向上に努めていく。

介護、福祉分野の人材不足が予測を上回るスピードで進んでいる。人員確保に努めサービスの量と質を保つことを最優先とするが、超高齢社会による要介護者の増加と少子化による労働人口の減少により、今後は一定数の人員を確保することは困難になると考える。人員不足への具体的な対策として、介護ロボットの中期的な導入計画の策定と、介護ロボットの活用力を高めるための試行運用を開始する。

2017年度の募集活動は順調で、目標以上の新入居契約数を達成することができた。2018年度は目標数を増やし、全職員の参加による新入居契約獲得活動を実施していく。期末入居率は95.3%以上を経営指標とする。

防災・避難計画においては、自治会との防災協定の確認と連携強化に努め、共同防災訓練を実施する。また、地域における公益的な取り組みとして障害者の就労機会の創出に取り組んでいく。

2019年度には開園40周年を迎えるため、入居者と準備を進めると共に、時代にふさわしい「エデンの園」の在り方を考える一年とする。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたりより良いサービスを提供します
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます

【事業・運営計画】

1. 入居者満足の向上
 - (ア) 入居者満足度調査結果に基づく改善の実施
 - (イ) 食事が楽しみになるメニューの提供 (目標：前年度以上の喫食率)

- (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるサービスの実践（パーソン・センタード・ケアの実践）
- (エ) パーソン・センタード・ケアを支える接遇力の強化
- (オ) 情報提供、情報共有による園運営の「見える化」の実践

2. 職員満足の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化
- (ウ) 役割範囲の拡大による段階的な人材育成の実践
- (エ) 業務・会議・委員会運営の見直しによる効率化

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動を推進し、期末入居率 95.3%を確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化(円滑な入退院の実現、外来リハビリテーションの増加)
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーの取り組み
- (オ) 介護ロボットに関する中期導入計画の策定と試行運用の実施

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染予防対策の徹底と発生時の連携強化
- (イ) 災害や救命時の緊急対応の強化
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認と連携強化
- (イ) 障害者の就労機会の創出
- (ウ) 環境美化活動の実施

【数値指標】

2018 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	340 戸／354 戸		45 戸／50 戸		385 戸／404 戸			
入居者数／定員	402 名／501 名		46 名／50 名		448 名／551 名			
入居率	96.0%		90.0%		95.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20 名	20 名	34 名	23 名	20 名	6 名	8 名	
職員数(常勤換算)	134.4 名							
サービス活動収益	933,240 千円							

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2017年度、開園37周年を迎えた松山エデンの園では、入居者が最期までその人らしく生活できるように、入居者へのいきがづくりやコミュニティ支援活動を行った。その中でもターミナルケアの取り組みとして、家族や医療機関の連携を充実させ、最期まで入居者を支えるサービスの実践ができた。入居募集活動では、入居者と語りふれあう企画を実施し、契約数も堅調であった。環境整備においては、2017年度も引き続き老朽箇所が確認されており、安全に配慮した対応工事を実施する一年であった。

2018年度においても、継続した入居獲得が維持できる募集活動、安心して生活できる園の設備環境の整備を行っていききたい。又2017年度の入居者満足度調査の結果を踏まえ、健康・生活支援サービスの体制づくりや、家庭的な食事の提供を継続して行う等、今よりも満足度の高いサービスを目指していききたい。その為には、まず人材育成が重要な位置づけとなり、聖隷・施設理念を理解し互いが協力できる職場環境づくりに取り組んでいく。さらに、感染予防や防災対応等のリスク管理を強化し、安全な施設運営を行っていかなければならない。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院は、入居者の大きな安心感になっており、より良い協力体制を継続し入居者支援に取り組んでいく。地域住民の方々には、引き続き防災協定に基づく協力体制や、介護フェスタ、公開講座を実施し、地域に貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の育成
3. 質の高いケアの提供
4. 安全で美味しい食事の提供
5. 医療法人聖愛会との連携
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 新規契約戸数 11戸12名
 - (イ) 快適な生活空間となる環境及び設備更新
 - (ウ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取組み
 - (エ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)

2. 人材の育成
 - (ア) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上
 - (イ) 職員のキャリアアップができる職員の育成
 - (ウ) 人材の採用と定着への環境づくり
 - (エ) コミュニケーション能力の向上
3. 質の高いケアの提供
 - (ア) 入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活支援の実施
 - (イ) 入居者の健康管理の積極的支援
 - (ウ) 入居者主体の認知症予防・介護予防活動の実践
 - (エ) 入居者の気持ちを大切にしたターミナルケアの実践
 - (オ) 職員・職場間の連携と協力
4. 安全で美味しい食事の提供
 - (ア) 多彩な食材・食事の提供による食事満足度の更なる向上
 - (イ) 地産食材導入の推進と適正なコスト管理の両立
 - (ウ) 生きがいのある生活の支援(介護食の追及)
 - (エ) “おもてなし”の心を大切にした食堂づくり
5. 医療法人聖愛会との連携
 - (ア) 常に情報交換を行い、入居者へのより良い医療体制の強化
 - (イ) 職員研修・サービス向上等実務面における連携強化
6. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取組み
 - (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】 2018 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	100 戸／107 戸		34 戸／35 戸		134 戸／142 戸			
入居者数／定員	119 名／134 名		34 名／35 名		153 名／169 名			
入居率	93.5 %		97.1 %		94.4 %			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	23 名	6 名	10 名	4 名	16 名	6 名	9 名	74 名
職員数(常勤換算)	57.6 名							
サービス活動収益	319,210 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2017年度、無事に一連の開園30周年記念事業を終えようとした初夏、突然NHKより電話を頂いた。「当園にて生き生きとした高齢者を映像化したい」とのことであった。園は入居者の生活の場であることから判断に躊躇したが、この機会に多くの皆様に自立型有料老人ホームを知って頂く機会になればとの思いでNHK「ドキュメント72時間」の取材を受けることとした。取材の際には多くの入居者の皆様に理解と協力を頂き無事撮影、放送を終えることが出来た。何より大きなトラブルもない中、予想以上に良い反響を頂き、多くの新入居者を迎えられた。改めて入居者の皆様に感謝する。

さて、2018年度は引き続き安定した施設運営を継続する為に「サービス向上」「新入居者募集」「人材育成」に加え、「新入居者ソフトランディング」を重視した取り組みを行う。「サービス向上」については、「美味しいのは当たり前」とし引き続き特に食事サービス向上に取り組む。新入居者募集については、2017年度の流れを継続しさらに入居率アップに努める。「人材育成」では、職員個々での課題解決をテーマとしたい。「新入居者ソフトランディング」とは、新入居者が新たな園生活に早く慣れ親しんで頂く為の取り組みである。2017年度多くの新入居者を迎え、園の環境は変化することが予想される。入居者の皆様、職員も対応に戸惑う場合もあると思うが園を挙げて新入居者を迎える体制を整えたい。

開園31年目に入り、幅広い入居者の年齢層、高齢化、ハード面では老朽化が進む中、入居者の皆様が安心安全で穏やかに過ごして頂く環境を整えたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネへの取り組み強化と地域との関わり
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 募集から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) サービス内容の可視化と適正化
 - (ウ) 入居者ニーズに沿った行事の企画と実施
 - (エ) 「美味しいのは当たり前」と言える食事サービスの提供
 - (オ) 人権擁護について理解を実践に繋げる
 - (カ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) 職場環境の充実と健康づくりへの取り組み
- (イ) 各課の情報連携の強化
- (ウ) 女性の働きやすさを意識した人材確保と育成
- (エ) 管理職をはじめとする職員個々のレベルアップ
- (オ) 施設内外の交流研修の実施
- (カ) ストレスチェック分析と具体的な行動計画実践

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 園内設備の計画的な改修検討と実施
- (イ) 全課が募集活動に参画し、入居率 91% (期末) 以上確保
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 各課の垣根を越えた効率的な業務改善
- (オ) 診療所サービス向上による利用者アップ
- (カ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) の運用確立

4. 環境・省エネへの取組み強化と地域における公益的な取組

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動 (環境保全) への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動 (整理・清掃・整頓・清潔・躰) の継続

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の構築

【数値指標】

2018 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	353 戸／379 戸	34 戸／45 戸	387 戸／424 戸
入居者数／定員	451 名／500 名	35 名／50 名	486 名／550 名
入居率	93.1%	75.6%	91.3%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	(合計)
	1	2	1	2	3	4	5	
	15 名	20 名	32 名	17 名	15 名	20 名	15 名	134 名

職員数(常勤換算)	138.5 名
サービス活動収益	990,880 千円

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2017年度は、エデンの園としての開園10周年という節目の年を迎え、記念式典をはじめ、様々なイベントを企画、実施することができた。また、この地域で「聖隷」「エデンの園」の認知度を向上させることに重点を置き、地域開放型のイベントを開催することができ、入居者募集活動においても結果を出すことができた。入居者においては、設備・機器の更新だけでなく、より多くの入居者の状態把握のため、健康チェックや相談の環境についても工夫を図り、入居者の安心・安全の確保に寄与することができた。

2018年度は、支援を必要とする入居者の「居場所づくり」に重点を置き、ハード、ソフトの両面を見直し、さらに入居者に寄り添ったケアサービスを提供していく。また、自立者の健康維持増進のために、新たなソフトを取り入れ、その成果も評価しながら、さらなる健康寿命の延伸に挑戦していく。経営面ではこの地域の新規顧客の拡大を狙い、地域ニーズに合ったイベントを開催し入居者募集に繋げていきたい。職員については、お互いを尊重し、継続して働ける環境づくりと、専門性を高め、スキルアップを支援する体制づくりで、モチベーションの向上を図っていきたい。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追及
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追及
 - (ア) デイケアルームの新設と活用
 - (イ) パーソン・センタード・ケアの園全体での取り組み推進
 - (ウ) エデン・クオリティ・コントロール (EQC) によるサービスの可視化
 - (エ) 接遇向上の取り組み
 - (オ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (カ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (キ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 働きがいのある職場作り
 - (ウ) 職員のキャリアアップの支援
 - (エ) 各職種別ラダーの活用と職員の育成
 - (オ) メンタルヘルス向上への取り組み

3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロ
 - (イ) リスク対策の強化とインシデント事例の共有
 - (ウ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施
 - (エ) 入居者の安心生活のサポート

4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の達成
 - (イ) 介護報酬改定に対応した適正な収益確保
 - (ウ) レストランの利用促進～喫食数の 3%アップ～
 - (エ) 職員への経営状況の周知
 - (オ) 共同墓苑の入会促進
 - (カ) 環境・省エネへの取り組み

5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域清掃活動への参加
 - (イ) 地域開放型イベントの充実
 - (ウ) 近隣と共同の避難計画の策定

【数値指標】

2018 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	189 戸／195 戸	25 戸／29 戸	214 戸／224 戸
入居者数／定員	219 名／294 名	25 名／30 名	244 名／324 名
入居率	96.9%	86.2%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	18 名	8 名	9 名	10 名	6 名	9 名	5 名	

職員数(常勤換算)	69.4 名
サービス活動収益	401,760 千円

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2017年度は「エンド・オブ・ライフケア」の更なる充実を目指し「聖隷横浜病院との連携」継続は勿論のこと、ケアサービスの質向上・永続性を目的に「認知症ケア」のDCMに加え、認知症介護実践研修・認知症介護実践リーダー研修を受講し、受講した職員を中心にチームとしての認知症ケアの基盤を再構築し、より「一人ひとりに寄り添えるケア」提供を目指した。

聖隷横浜病院の医師がホームドクターとして「ターミナルケア」だけでなく、入院中から退院その後の生活迄を一貫してフォローして頂ける体制により、本人・家族の想いをタイムリーに受けとめた上での、継続的な「チームケア」が実践できた。

また、リスク対策の強化については多発事故に重点を置き、事故原因・要因の分析・対策案の実践という過程をPDCAに基づき繰り返す事により発生件数は大幅に減少でき、安全・安心・良質なサービス提供に繋がっている。

入居率については、入居希望者の入居時期と空室状況と合わなかったため、苦戦を強いられ平均入居率96%と伸び悩んだが、介護保険収益は施設での「看取り」の実践や入院期間の短縮等により、数値指標を達成する見込みである。反面、費用は開設8年目を迎え様々な設備・備品の経年劣化を含めた修繕・修理費用が想定外に増加してしまい予算達成は難しい状況である。

2018年度は、引き続き聖隷横浜病院との連携を維持・強化することにより「エンド・オブ・ライフケア」充実を目指す他、ケアサービス質の向上・永続性・可視化と、職員が自信を持ってケア提供を行い入居者・家族により安心していただけるよう、「キャリア段位制度」認定取得も開始をしていきたいと思う。また今後は、2017年度と同様に人員の確保がより重要となる他、当施設での「働き方改革」についても、取り組むべき大きな課題であると認識している。

地域連携については、従来の活動に加え災害時連携等をより具体化すること、園主催のセミナーも防犯・防災等、日常に即したテーマを取り入れる等、連携の強化を図る。

電気・水道使用量の増加に対しては、引き続きエコロジー活動を継続していき削減を目指す。そして、入居率98%を維持し安全・安心・良質なサービスの提供を行う。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
2. 人財の育成
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域社会との連携と協働
5. 環境・省エネルギーに対する意識強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
- (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催と PDCA：感染・苦情相談含）
- (ウ) パーソン・センタード・ケア理念に即したチームケアの実践
- (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持強化
- (オ) 入居者満足度調査の実施と結果の評価・分析による改善への取り組み

2. 人財の育成

- (ア) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上の継続
- (イ) 教育システムの構築と実践（認知症専門研修・キャリア段位認定資格への取得支援等）
- (ウ) ストレスチェックから見えてくる課題への対応によるメンタル不全者発症ゼロ化

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 98%の維持
- (イ) 職員全員のコスト意識の強化
- (ウ) 収支構造の改善に向けた取り組みの実践
- (エ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域防災連携の構築と実践
- (イ) 地域貢献への活動の継続

5. 環境・省エネルギーに対する意識強化

- (ア) 入居者と協働したエコロジー活動
- (イ) LED、デマンド導入を視野に入れた省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続

【数値指標】

2018 年度期末

	2018 年 3 月末	2018 年 4 月 ～2019 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数／総戸数	49 戸／50 戸	50 戸／50 戸	50 戸／50 戸
入居率	98.0%	100.0%	100.0%

※退去戸数を 8 戸で計上

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	4 名	12 名	4 名	9 名	8 名	12 名	50 名

職員数(常勤換算)	50.7 名
サービス活動収益	273,480 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2017年度は、職員一人ひとりが高いプロ意識を持ってサービスの提供に努めること、「聴く力」「考える力」「応える力」の向上に注力し「改善・改革」を実践していくことを目指してきた。2018年度も、それらを継続するとともに、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを活用し、質の高いサービスの提供を行っていく。

2018年度は、診療報酬と介護報酬が同時に改定され、ウェルフェアタウンの各事業においても、運営方針、体制、サービスの質が、更に厳しく評価されることとなる。これまで藤沢エデンの園、藤沢愛光園で推進してきたパーソン・センタード・ケア、認知症ケア、看取りケアへの取り組みや、在宅部門が行ってきた障害者や小児へのケア他、ウェルフェアタウンが行ってきた各サービスをあらためて精査し実践することにより、報酬改定への対応のみならず10年先を見据えた高齢者複合施設となるよう整備をすすめていく。

また、2018年度も、湘南大庭地区における地域包括ケアシステムの一翼を担う役割と、聖隷の使命のひとつである地域社会への貢献を実践するために、行政、医療機関、企業と積極的に連携し、それぞれの持ち味を活かしてお互いがサポートできる環境づくりを目指す。加えて、関係各機関と協力し「サービスの見える化」を積極的に行い、この地域が様々なサービスを最適で円滑に提供できる環境となる活動を行う。その他、各種災害に対する防災体制の見直しや、地域の行方不明高齢者ゼロ活動等へのプロジェクトに参画し、地域を巻き込んだ「安心・安全」の充実を図る。

2018年度も、利用者の皆様が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じることができるよう、運営をおこなっていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 「提案・改善・改革」の継続（PDCAの理解と実践）

3. その時その場が育成の機会：その②（OJTの強化）
4. 将来を見据えた施設の価値創造
5. 地域の行方不明高齢者ゼロ活動への参画

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

一番館は、入居率100%の達成、維持を目指す。一番館、二番館共に、変化するニーズをタイムリーに把握し、これまで以上に質の高いサービスの提供を行う。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. 住宅型有料老人ホームとしてのあるべきサービスの確立
2. 育成スキルの向上
3. エデンと地域の相互理解

（数値目標）

2018年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	208戸／209戸	—	208戸／209戸
入居者数／定員	268名／418名	—	268名／418名
入居率	99.5%	—	99.5%

職員数(常勤換算)	54.95名
サービス活動収益	416,250千円

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 安全で安心できるサービスの提供
2. ケアの質の向上

（数値目標）

2018年度期末

	2018年3月末	2018年4月 ～2019年3月	計
契約戸数／総戸数	40戸／50戸	47戸／50戸	47戸／50戸
入居率	80.0%	94.0%	94.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0名	3名	8名	9名	12名	10名	7名	49名

職員数(常勤換算)	38.62名
サービス活動収益	204,910千円

藤沢愛光園

職員一人ひとりが働き甲斐のある職場となるよう、ユニットリーダーが中心となって利用者と職員の笑顔につながる活発なアクティビティを企画・実践する。また、利用者の安全と安心のサービス提供に努めながら安定した入居率（利用率）を確保し健全運営を目指す。スタッフの離職ゼロを目標に、ユニットリーダーと係長の間にフロアリーダー制をとり、職員間で相談しながら安心して働ける体制を構築するとともに次世代の係長候補を育成する。

在宅サービス事業では、藤沢市の中でも超高齢化となる湘南大庭地区において、藤沢エデンの園一番館の入居者を含め、地域に信頼され、必要とされる事業所となるよう更なる活動を展開させていく。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 安定経営
3. 人材確保体制の構築

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	35,770 人	6,753 人
営業日数	365 日	365 日
一日平均利用者数	98 人	18.5 人
稼働率	98.0%	92.5%
単価（1人1日あたり）	14,379 円	13,822 円
サービス活動収益	514,850 千円	93,330 千円
職員数（常勤換算）	66.6 人	12.77 人
職員数（常勤換算）	79.37 人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者自らが、健康維持・管理の一環として機能訓練に取り組めるよう全職員で支援する。職員の担当制の役割を明確化し、利用者個々のニーズに合わせたケアを提供していく。また、利用者のリハビリ実践にむけて、職員の育成に取り組んでいく。

(数値目標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	26 件	667.4 件	8,009 件	15.3 件	183 件	10,300 円	38,900 円	96,170 千円
半日	3 件	77.5 件	630 件	—	—	円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2018年度は、職員自らの課題を明確化し、課題の解決に主体的に取り組めるような人材を育成していく。エデンの園や地域のニーズに応えられる体制を確立する。

(数値目標)

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,190件	657件	16,284円	4,200円	62件	5,000円	22,470千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2018年度はエデンの園を含め地域の様々なニーズに対応できるよう人材確保に努め、制度改正にも柔軟に応えられる体制づくりに取り組んでいく。

(数値目標)

介護給付			総合事業		障害者		
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	平均利用者数	月訪問数	年間訪問数
35名	517.6件	6,211件	19件	228件	30件	324件	3,880件

単価			サービス活動収益
介護給付(回)	総合事業(月)	障害者(回)	
3,938円	18,242円	3,986円	46,830千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2018年度は、地域の各関連機関と連携を強化し、紹介・在宅緩和ケアを含めた訪問の充実拡大を図る。利用者と家族が、安全・安心な生活に必要な在宅ケアを提供するために、更なる人材育成を行い、地域から選ばれる事業所を目指す。

(数値目標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
87.3名	657.8件	7,894件	9,396円	76,350千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2017年度は開園25周年を迎え、有料老人ホームでは新規契約戸数の予算を上回る契約戸数を達成することができた。一般居室は高い入居率を継続し、介護居室への住替えも必要とされる方へ円滑に行うことができた。設備については男女大浴場の大規模リニューアル工事及びボイラー関係全般の更新を行った。入居者の皆様には施設理念である健康で安心した生活を送っていただけるよう「健幸（造語）生活」作りを継続してきた。奈良ベテルホームは在宅復帰に注力する施設方針が明確化され在宅支援・在宅復帰施設として稼動を開始し、利用者確保のための渉外活動も積極的に行った。在宅部門を中心とした地域支援への取り組みは、河合町、地域包括支援センター主催の会議や研修会に参加した。安全面では引き続き地震と火災を想定した防災訓練と不審者対応防犯訓練を実施した。

2018年度は6年に一度の介護報酬と診療報酬のダブル改定が行われる。運営に大きく影響を及ぼす改定であるため迅速な対応と適正な収益確保が要求される。2017年度より継続している「高齢者と認知症にやさしいエデンづくり」をさらに深めるためにご利用者の皆様と共に認知症について学び、正確に理解していくことに注力したい。そして「エデン版地域包括ケアシステム」の運用を開始する年としたい。そのために知識・技術は勿論であるが理念を全職員が理解できるよう取り組んで行き、サービスの提供では特に介護部門職員の確保と教育、経験豊かな職員を育て上げることに重点を置いていく。WAC 第一号施設として継続してきた各事業活動の強みを活かし新たな活動に向けて全職員で取り組んで行きたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継続とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最後まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版地域包括ケアシステムの運用
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運営
 - (オ) 楽しさと生きがい作りを支援
 - (カ) 介護予防・認知症予防の取り組みの強化
 - (キ) 生活リハビリテーション等による自立支援の促進

2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 介護報酬、診療報酬改定への迅速な対応と適正な収益確保
 - (イ) 複合施設の強みを活かした入居者・利用者ニーズの把握と確保
 - (ウ) 経営指標の可視化共有による経営意識向上
 - (エ) 業務内容の見直しと適正な人員配置
 - (オ) エコ活動による省エネルギー資源活動への取り組み
3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 採用力強化と定着への取り組み
 - (イ) 障害者の就労の場を提供し雇用率2.3%を確保（地域における公益的な取組）
 - (ウ) 各種ラダーを活用した職員教育の実践
 - (エ) 他施設との横断的な人材交流の推進
 - (オ) 専門研修への計画的参加と資格の取得支援
 - (カ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (イ) リスク分析による転倒及び転倒骨折事故の削減
 - (ウ) コンプライアンス意識の向上
 - (エ) EQC（エデン・クオリティ・コントロール）の定着と実践
 - (オ) サービスの適正化・数値化の推進と利用者への的確な説明
 - (カ) 接遇教育の徹底
 - (キ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - (ク) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (ケ) 満足度調査結果の分析と課題解決への取り組み
5. 地域及び他施設との連携・交流
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献と世代間交流
 - (イ) 地域との防災の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための整備
 - (エ) 地域支援事業への積極的な参画

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2017年12月末現在において、入居契約件数399戸（一般居室354戸、介護居室45戸）入居率は97.8%（一般居室97.8%、介護居室97.8%）である。また、ご入居者の平均年齢は全体で81.9歳である。2018年度はエデン版地域包括ケアシステムの運用に向けて「いきいき生活室」を設置する。施設整備として、図書コーナー及び介護居室の6戸増室を行う。また4月に介護報酬の改定と食事委託業者変更による運用が開始になり、収支を見ながらしっかり運営することが重要になってくる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践
 - (ア) その人らしさを最後まで支えるケアの推進
 - (イ) 施設内連携の実践によるエデン版包括ケアシステムの運用
 - (ウ) 認知症予防に向けた取り組みの強化とパーソン・センタード・ケアの浸透
 - (エ) 安定した食堂運営の確立と食の満足度向上
 - (オ) 健幸生活の継続と推進
 - (カ) 介護予防プログラム見直しによる機能維持向上
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 介護報酬、診療報酬改定への迅速な対応と適正な収益確保
 - (イ) 適切な介護認定に向けた介護保険契約の推進
 - (ウ) 入居募集活動への協力と連携
 - (エ) 介護居室増室により住み替えが必要とされる方への適正な対応
 - (オ) エコ活動による省エネルギー資源活動への取り組み
3. 人材の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 障害者雇用に向けた各職場間の連携
 - (イ) 各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (ウ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
 - (エ) ストレスチェックの活用による職場環境整備と風土づくり
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) リスク分析能力向上による転倒及び転倒骨折事故の削減
 - (イ) マイメモリーシートの共有による入居者への細やかなサービス提供
 - (ウ) EQCの定着と実践によるサービスの標準化の推進
 - (エ) 接遇の維持向上を目指した職員教育の徹底と推進
 - (オ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の整備
5. 地域及び他施設との連携・交流
 - (ア) WAC施設としての地域貢献と地域支援事業への積極的な参画
 - (イ) 地域との防災体制の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための整備

【数値指標】

2018年度期末

	一般居室			介護居室			計	
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
契約戸数	357戸			47戸			409戸	
入居者数	468名			48名			516名	
入居率	98.6%			90.4%			97.6%	
要介護認定者数	34名	19名	28名	18名	13名	13名	7名	132名
職員数(常勤換算)	96.6名						※有料老人ホーム部分	

◆ 高齢者総合福祉センター

2017年度は、諸事情により文化教養講座の開催数が計画より4減となり受講者数が減少する結果となった。ホールイベントにおいては入居者の参加数が増え外部との割合が、4(入居者):6(外部)から5:5へと変化した。2018年度では、集客数にとらわれず文化教養講座の充実を最重要課題とし、開催に向けての調査・研究に注力する。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2017年度は、2016年度より更に経営基盤の安定が図れるよう、渉外・広報活動及び入退所管理を強化した。また、老健施設機能の強化に繋げるべく「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定できる体制整備を行い7月より取得できた。ケアサービスにおいては、在宅復帰や施設生活の継続など、利用者個々の利用目的によって異なるニーズに応えるため、個別ケアの充実を図り実践した。環境面においては個室改修、ベッドの更新を行い利用者にとって快適な環境を提供することが出来た。2018年度は、介護報酬改定に対応したサービス提供と利用者の確保を行い、収益確保・予算達成が出来る事業運営を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2017年度は、がん疼痛緩和指導管理料や緩和ケア診療加算を取得し、利用者のニーズに対応した看取りや緩和ケアを充実させた。また、個室備品使用料見直しや一般病床在宅復帰機能強化、入院や在宅での後発医薬品使用比率を増やす取り組み、環境整備を行った。

2018年度は、診療報酬改定や第3期特定健診及び特定保健指導への迅速な対応と適正な収益確保に努めたい。また、療養病床の転換問題、地域の外来患者獲得に向けた対策など、中長期的な視野で各課題に取り組んでいく。

◆ ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2017年度は、訪問介護件数は予算未達であったが、福祉用具貸与・販売は予算達成できた。総合事業の契約締結準備を行い、自治体主催の訪問介護員養成研修へ職員を派遣した。

2018年度は、総合事業開始に伴い、基準緩和サービスへの参入を行う。また地域事業所、ケアプランセンターや訪問看護等との連携を密にとり、事業の安定化を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2017年度は、医療保険件数は増加したが、介護保険件数の減少により事業収入が予算未達であった。ターミナル訪問依頼を断らず、退院前カンファレンスや病棟訪問を積極的に行ったことで利用者のニーズに応えることができた。また、自治体、住民からの要請による「河合町出前講座」では『看取り』をテーマにした講座に講師を派遣した。2018年度は、医療保険、介護保険、精神科訪問看護の利用者増加に向け、関係機関等への渉外活動を充実させることで、事業運営の安定化を目指す。引き続き地域への研修会講師派遣を行っていく。

◆ ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2017年度は、地域ケア会議など関係機関との会議や研修等に積極的に参加する中で、医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数増につながり、予算を達成した。2018年度は、介護保険制度改定に対応しつつ、地域包括ケアシステム構築に向けて関係者と協働する中で連携強化を推進し、より良いサービスを提供する中で、地域の中で頼りにされる事業所と新規利用者獲得による事業運営の安定化を目指す。

ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2017年度は、引き続き好調な入居者募集活動に支えられ、一般居室についてはほぼ満室の状況であり、安定した経営を維持することができた。その一方で、入居者の平均年齢は84.5歳を超え、介護保険認定者数、死亡退去者数とも2016年度を上回っており、今後も提供すべきサービスの内容・量とも増加していくと思われる。

国が推進する地域包括ケアシステムでは、医療、介護、介護予防、住まいおよび生活支援が包括的に確保される仕組みの構築を目指しているが、当園においても、各課の協力と情報の融合により、園内における各種サービスが包括的に提供できるシステムの向上が求められる。入居検討時から最期まで、入居者一人ひとりに対し各部署がどのように関わっていくべきか、自立時・要支援・要介護・看取り時と容態に合わせたシームレスなサービス体制のさらなる発展を目指したい。そのためにも気づきと行動力のある専門職の育成が不可欠であり、松戸ビジョンとして掲げる、プロが支える「我が家」を実現すべく職員教育にも注力していきたい。その他、経営基盤の安定やリスク管理体制の強化など、残された課題は多くあると認識しており、2018年度の事業・運営計画として遂行していきたい。

また、WAC 施設として地域共生社会の実現に向けての取り組みも役割の一つである。開設当初から松戸市と進めている「松戸市しあわせ村構想」の次なるステップを具体化する時期にきており、松戸市および松戸市立福祉医療センター東松戸病院等との連携、情報共有を密にし、今後の地域連携の一翼を担う施設としてのビジョンを明確に打ち出す年としたい。

以上を踏まえ、以下のような2018年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とっていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期まで、その人らしい生活を支えるシームレスなサービス体制の確立

- (イ) 入居者一人ひとりのライフスタイルに合わせた食生活支援
- (ウ) 情報共有のシステム化とさらなる活用
- (エ) 入居者参画型の企画・行事の充実
- (オ) 孤立しがちな入居者のコミュニティーづくり

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 気づきと行動力のある専門職の育成
- (ウ) 接遇の知識・技術の向上と定着
- (エ) 新入職員へのサポート体制の構築
- (オ) 業務整理と新たなサービスへの取り組み
- (カ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集
- (イ) 適正な介護保険請求と報酬改定への対応
- (ウ) 一時介護室およびクリニック病床の適正利用
- (エ) 選ばれる食堂に向けた取り組み強化（喫食率の向上）
- (オ) 雇用制度多様化への対応と有効活用

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 感染予防対策の強化
- (イ) 防災・防犯のさらなる充実
- (ウ) I/A の活用による事故の再発防止
- (エ) コンプライアンスの徹底
- (オ) メンタルヘルス予防活動の推進

5. 社会・地域への貢献と連携

- (ア) WAC 施設としての取り組みの充実
- (イ) 地域に求められる中期計画の策定
- (ウ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組）
- (エ) 社会的責任への取り組み充実

【数値指標】

2018年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	314戸/315戸	35戸/37戸	349戸/352戸
入居者数	387名/419名	37名/37名	424名/456名
入居率	99.7%	94.6%	99.1%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	30名	23名	29名	17名	13名	14名	12名	138名

職員数(常勤換算)	116.26名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

開設 20 年を超え、園のご入居者の平均年齢も 84.5 歳となり高齢化が進んできている。介護認定者数についても急激な増加傾向にあり、診療所としても入居者の心と身体の衰えに対応することが急務である。2018 年度も入居者のさらなる高齢化が予想され、様々な疾病への対応と各職種の専門性がさらに必要となることから、チーム医療の実践は当然のことながら、個人のスキルアップも急務であると考え。そのため、各職種におけるそれぞれの専門性を活かしたサービスで、入居者、利用者へ安心と信頼を提供するため、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組みたい。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の充実
- (エ) 地域への貢献、地域医療連携の充実

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としてのスキルアップ
- (イ) 園内教育、研修制度の変革
- (ウ) やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 入居者の定期健康診断受診率(90%)とベッド稼働率(90%)向上
- (イ) 全職員が費用対効果に対する意識を高め、実践する
- (ウ) 診療報酬改定への対応

4. リスク管理体制の強化

- (ア) IA(レポート)システムの有効活用
- (イ) 電子カルテシステムの活用

2018 年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,450円	243日
入院部門	17.0名	11,500円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	720名	840名
職員検診	177名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2018年度は、エデンの園のノウハウを地域にお住いの方にも還元できるよう、介護予防に重点を置いた企画の展開を検討したい。また、多くの入居者が参加できる季節のイベントや各種教室、園の大ホール、エントランスロビーでのコンサートを引き続き開催していく。これらには地域にお住まいの方にも参加いただき、地域に開かれた運営を行うことで、入居者と地域の皆さまとの交流の場としたい。

1. エデンの園のノウハウを近隣の皆様に還元できるイベントの企画・立案
2. 広報活動による地域との交流
3. 入居募集の支援

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2018年度事業計画

- ・地域が求めている訪問介護支援への要望を情報収集し、期待に応える事のできる事業展開をめざす。介護保険下での増収を図るべく介護支援事業所への営業活動を積極的に行う。
- ・昨年度に引き続き入居者への有償サービスの拡充に注力していく。
- ・障害者支援サービスのための介護員のスキルアップ及び積極的な研修参加。

2018年度重点施策

求められる事業所

- *事業拡充による収支の増加 安定
- *ベル事業の拡充
- *専門性を持った職員の育成
- *地域との連携強化による地域貢献

2018年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付（日平均）	19.0名	3,800円
予防給付（月利用者数）	14.0名	17,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	15.0名	7,000円

営業日数＝309日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2016年の厚生労働省の報告によると日本の高齢化率は27.3%となり、いよいよ超高齢社会が現実のものとなっている。明日見らいふ南大沢がある東京都も例外ではなく、高齢化率は23.1%と全国平均よりは低いものの高齢者人口は300万人を超え、今後は他地域よりも高齢者が急激に増加していくことが見込まれており、高齢者施設や医療機関(特に入院ベッド)不足・働き手不足など様々な課題に直面していくことになる。これまで以上にこの地域における高齢者を取り巻く環境の変化に注意深く対応していくことが必要となってくる。

明日見らいふ南大沢では、入居者の平均年齢も2016年同時期と比較しても0.4歳高くなり85.2歳(2017年11月末)となった。90歳を超えても自立した日常生活を送っている方もいるが、何らかの支援を必要としている入居者が増えているのも事実である。すべての入居者が安心して暮らせる体制の充実を図っていききたい。

2018年度は自立した入居者向けに健康長寿への取組みとして昨年度からスタートしたSSE(スクエアステップエクササイズ)・MCIミニドック(軽度認知症検査)などの定着化と効果を見ながら、高齢者公益事業部とも協力して新しいプログラムの開発にも取り組んでいく。

また、特に力を注がなければならないのは、“自立した生活から支援が必要になるまでの移行期”にある入居者への関わり方であると考えている。あらゆる意味において生活サービス課が生活サービスの真の窓口となり、在宅サービスにおける地域包括支援センターのような機能を持ち、様々な理由でSOSを発信でき難い入居者を早期に発見し、適切な支援を行える体制づくりに取り組んでいきたい。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - (イ) 介護基準・生活利便サービスの検討と再考
 - (ウ) 要介護未認定入居者や困難事例に対する支援体制づくり
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有
 - (オ) 入居者の意志を聞き取る体制づくり

2. 人材の育成

- (ア) 役職者のマネジメント能力の向上(問題発見・解決能力、判断力、組織性・専門性の両立、動機づける力、承認できる力)
- (イ) やりがいのある職場風土の醸成
- (ウ) 課を超えた正確な情報の共有ができる人材の育成
- (エ) 他部署の仕事を知る機会を作る

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりを持ち、専門職として地域へ出ていく機会を作る
- (ウ) 入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり

4. 環境・エコ活動への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による活動(ペットボトルキャップ回収等)
- (イ) 環境美化活動の継続(周辺ゴミ拾い活動)

5. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携
- (イ) 募集事務所と連携して新規入居者のスムーズな受入れ
- (ウ) 職員全員が入居者募集担当であるとの自覚を持って、入居検討者を迎える

【数値指標】

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	300戸/317戸		46戸/53戸		346戸/370戸			
入居者数/定員	348名/482名		46名/53名		394名/535名			
入居率	94.6%		86.8%		93.5%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17名	15名	30名	19名	11名	18名	11名	121名
職員数 (常勤換算)	109.47名							
サービス活動収益 ※	116,000千円							

※聖隷クリニック南大沢施設診療所のみ